

市からの情報提供手段を確認

防災行政無線



現在、市内全域に386機設置している。午前7時と午後4時に市からのお知らせを、町域ごとに放送。災害などの緊急時には随時放送し、いち早く市民に情報提供をする。

市メール配信サービス



防災、防犯、市の行事などを、登録されたメールアドレスに随時配信。パソコン、携帯電話、どちらでも登録可能。登録用URL：<http://tomecity.mail-dpt.jp/>

H@!FM (ハットエフエム)



毎日、各種市政情報を定刻に放送している。災害や犯罪などの緊急時には、随時情報を放送する。東日本大震災時には、唯一の情報発信手段として活躍した。H@FM! : 76.7MHz

大規模災害が発生した場合、「72時間」という時間をいかに過ごせるかが鍵となる。①72時間を超えると被災者の救出時の生存率が著しく低下②人間が水分を取らずに済む限界など、人の命に直結した時間なのだ。反面、72時間を無事に過ごせれば、生き延びる確率が一気に上がる。災害で被災し、命を落とす要因となるのが①低体温症②脱水。

体がずぶぬれになり、着替えや体を温めるものがなかったため、息を引き取った人が少なくない。脱水については、熱中症がその例に挙げられる。夏場に、家の中で熱中症が原因で倒れたり、命を落としたりする人が少なくない。仮に真夏に災害が発生し、着の身着のまま逃げ出し、飲み水が確保できなくなれば、その結果は見えるだろう。これからの季節、暖かいからといって油断は禁物。非常持ち出し袋に、低体温症対策としてしっかりとした雨がっぱを、脱水予防として1日当たり3リットの飲料水を追加してほしい。



自守防災



2011年に発生した東日本大震災。市内では死者はなかったものの、水道や電気などのライフラインに大きな被害を受け、避難所暮らしを強いられた市民も少なくない。2009年、台風18号の影響で、南沢川と北沢川の合流点から越水。

津山町横山地区では床上、床下浸水で80棟以上の住居が被害を受けた。本年4月、熊本地震が発生。想定外の地で想定外の災害が発生している。いつ来るか分からない災害から、大切な命や古里を守るために、何が必要かを考える。

実効性ある自主防必要

本市では、大規模な地震や水害が発生している。1948年にカスリン台風により中田町大泉堤防の決壊、78年に宮城県沖地震、2009年に津山町横山地区で台風18号の影響で河川から越水、そして11年には東日本大震災。

このような大災害に対応するため、市内では全行政区で300の自主防災組織が結成された。しかし、自主防災組織は本場に必要なのだろうか。

近年発生している災害は、私たちの予想を超える「想定外」と呼ばれるものが増えている。東日本大震災の津波の高さは、最大で20メートルを超えた。

熊本地震も、本震の前に余震が発生したり、50日間も揺れ続けた。大地震は想定できても、長期間揺れ続けるものは想定できなかった。大地震は、地震火災を引き起こす。地震で配線類がショート、ガスを消せないことで、火災が発生。このとき、

道路が寸断して消防車がこれなかったら「消せない火災」となってしまふ。少しでも被害を減らすためには、バケツリレーなどで初期消火しなければならぬ。

自主防災組織の主な役割は、災害時の地域の安否確認や、避難所運営などの共助活動だ。しかし、消火活動も必要となることもある。

このようなことから、消防団だけではなく、自主防災組織は必要なのだ。そして組織するだけではなく、いざというときに、動けるものでなければならぬ。

72時間を過ごすため

平成28年市総合防災訓練は6月5日、消防防災センターを会場に開催された。訓練は各町域の自主防災組織の防災力向上を目的にしており、本年は豊里町住民を主に約300人が参加した。

訓練では、避難所設置までの図上訓練やバケツリレーでの消火活動、心肺蘇生法や身の回りにあるものでの止血法などの救命処置、炊き出しなどを実施。基本的なものではあるが、災害現場で必ず必要となるメニューを実践した。

熊谷 康成 さん (津山町横山5区)



横山地区水害体験者に聴く

私は自営業で、台風18号の水害の時は、家で休みの時間帯でした。決壊して20分ほどで、床上に浸水。本当に一瞬でした。自宅から避難所の横山小学校に行く経路は、

国道45号線しかありません。水害後、横山地区で「人名財産を守る会」を発足し、横の連携を強化しました。今後も、守る会で避難ルートなどを検討していきたいです。

市総合防災訓練参加者に聴く



佐藤 長一 さん (豊里町浦軒)

市総合防災訓練に初めて参加しました。避難所設営の図上訓練や、バケツリレーなどもよかったのですが、特に、救命処置の訓練は勉強になりました。そういう場面には出会いたくないですが、災害などで、いつ誰の処置をするか分からないので、ちゃんと習得できるように、今後も定期的に勉強したいと思いました。

被災地支援リポート



登米市税務課 千葉 敬実 係長

意識を風化させずに

熊本県御船町で、5月17日から2日まで、災害派遣として罹災証明書発行業務を支援した。

そこで感じたのは「被災者ニーズに行政がついていけない」こと。被災者の要望は、次々と増えていく。罹災証明書も、今後の支援などの申請に必要。早く発行してほしいと要望されていた。しかし、職員は避難所運営などで忙殺されている。そこで派遣職員が対応するという状況だった。平常時から、災害を見越しての準備や、意識を持つことの重要性を再認識した。市役所の危機管理体制として、災害時には適材適所の役割分担が必要だと感じた。所属部署を超え、職員が持つ能力を発揮できる場所に割り当てること。この対応ができれば、被災者に余分なストレスを与えないで済むはずだ。そしてもう一つ大事なことは「意識を風化させてはならない」ということ。この気持ちを持つことが、何より早い対応につながる。

大切な命を守る技術を 普通救命講習会を開催

【日時】7月17日(日)午前9時～正午
【場所】消防防災センター
【定員】30人(先着順)
【申し込み方法】消防署・各出張所にある受講申込書を記入の上、直接提出または電話でお申し込みください。
【問い合わせ】消防署救急係 ☎0220(22)2119